



(本誌はホームページでもご覧いただけます。)

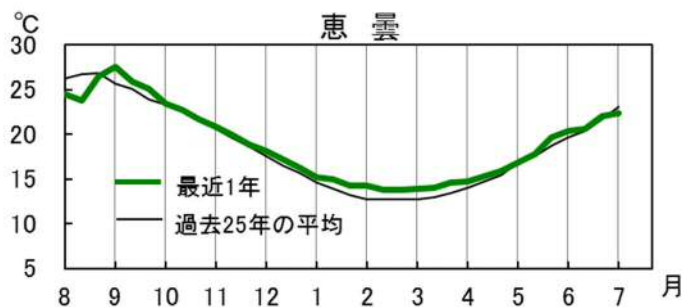
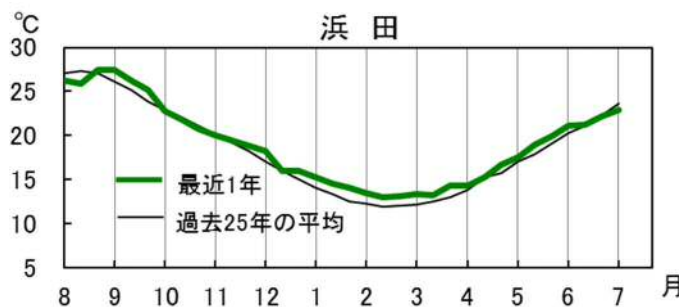
<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

(TEL 0855-22-1720)

《6～7月の海況》

	6月平均	平年差	評価
浜田	21.5℃	+0.3℃	平年並み
恵曇	21.0℃	+0.4℃	やや高め

沿岸定地水温は、浜田地区では、6月上旬は「かなり高め」、中旬は「平年並み」、下旬は「平年並み」となり、7月に入り上旬時点で「やや低め」で経過しています。恵曇地区では、6月上旬は「やや高め」、中旬は「平年並み」、下旬は「平年並み」となり、7月に入り上旬時点で「やや低め」で経過しています。



《6月の漁況》

【中型まき網漁業】

浜田地区ではマアジ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は8.4トンで平年を下回りました。魚種別の動向(総漁獲量)は、マアジは235トンで平年の6割に留まりました。隠岐地区ではウルメイワシ、マアジ、マイワシ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は37.3トンで平年を下回りました。魚種別の動向(総漁獲量)は、ウルメイワシは1,881トンで平年の2.6倍となりましたが、マアジは1,590トンで平年の8割に留まりました。マイワシは1,184トンで平年の2割に留まりました。

【イカ釣漁業】

浜田地区(属地5トン以上)ではケンサキイカ(全体の89%)、スルメイカ(全体の11%)が主体の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は47kgで平年を下回りました。西郷地区(属人5トン以上)ではスルメイカ(全体の100%)が主体の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は222kgで平年を上回りました。

【ばいご漁業】

石見地区ではエッチュウバイを主体に、総漁獲量36トンと平年の1.3倍、1統1航海当たりの漁獲量は1,216kgで平年の1.5倍に増加しました。エッチュウバイの漁獲量は32トンで平年の1.3倍、銘柄別では、「中」「中大」および「大」を主体に漁獲しており、特に「中大」は10tを越え平年の2.4倍に増加していました。昨年6月は出漁日数が少なく漁獲量は低水準でしたが、今年は好漁となっていました。

【しいら漬け漁業】

6月から始まった石見地区のしいら漬け漁業はヒラマサ、シイラ主体の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は1.9トンと平年の1.8倍となりました。魚種別の動向(総漁獲量)は、ヒラマサは52.7トンで平年の7倍となり、シイラは25.1トンで平年の6割の漁獲量となりました。

【定置網漁業】

出雲地区ではヒラマサ、ブリ、ホソトビウオ主体の漁況で、1統当りの漁獲量は39.7トンで平年を上回りました。魚種別の動向(総漁獲量)は、ヒラマサは平年の4.1倍、ブリは1.9倍、ホソトビウオは9割の漁獲量でした。石見地区ではマアジ主体の漁況で、1統当りの漁獲量は23.2トンで平年並みでした。魚種別の動向は、マアジは平年並みの漁獲量でした。隠岐地区ではブリ主体の漁況で、1統当りの漁獲量は20.7トンで平年の5割でした。魚種別の動向(総漁獲量)は、ブリは平年並みの漁獲量でした。

【釣・縄】

出雲地区ではケンサキイカ、イサキ、アマダイが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は18kgで平年を下回りました。魚種別の動向(総漁獲量)は、ケンサキイカは平年の3割、イサキは7割、アマダイは平年並みの漁獲量でした。石見地区ではケンサキイカ、アマダイが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は15kgで平年を下回りました。魚種別の動向は、ケンサキイカは平年の3割、アマダイは1.5倍の漁獲量でした。隠岐地区ではスルメイカ、カサゴ・メバル類が主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は33kgで平年を上回りました。魚種別の動向は、スルメイカは平年の13倍、カサゴ・メバル類は平年並みの漁獲量でした。

【令和元年 6 月の漁獲統計】

漁業種類	地区	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1 隻(統)1 航海当り漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	マアジ	261 トン	43%	47%	8.4 トン	42%	51%	▲
	隠岐	ウルメイワシ、マアジ、マイワシ	5,268 トン	52%	62%	37.3 トン	51%	65%	▲
イカ釣り (5トン以上)	浜田	ケンサキイカ、スルメイカ	4 トン	41%	25%	47kg	56%	32%	▲
	西郷	スルメイカ	65.6 トン	319%	405%	222kg	161%	205%	◎
ばいかご	石見	エチュウバイ	36 トン	228%	129%	1.2 トン	159%	146%	◎
しいら漬け	石見	ヒラマサ、シイラ	78.1 トン	331%	180%	1.9 トン	202%	161%	◎
定置網 (大型)	出雲	ヒラマサ、ブリ、ホソビウオ	516 トン	107%	115%	39.7 トン	107%	120%	◎
	石見	マアジ	93 トン	83%	83%	23.2 トン	83%	83%	○
	隠岐	ブリ	62 トン	73%	50%	20.7 トン	73%	50%	▲
釣り・縄	出雲	ケンサキイカ、イサキ、アマダイ	33 トン	88%	56%	18kg	92%	85%	▲
	石見	ケンサキイカ、アマダイ	33 トン	62%	49%	15kg	75%	76%	▲
	隠岐	スルメイカ、カサゴ・メバル類	45 トン	160%	159%	33kg	160%	182%	◎

平年比：過去 5 年（沖底のみ 10 年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

大型定置網漁業は 1 統当り漁獲量です。

※令和元年 7 月 5 日発行 6 月号の【中型まき網漁業】の内容に誤りがありました。下記のように訂正の上お詫びいたします。

浜田地区ではマアジ、サバ類…魚種別の動向（総漁獲量）は、マアジは 171 トンで平年の 1 割、サバ類は 21 トンで平年の 0.5 割となりました。（誤）

浜田地区ではマアジ、サバ類…魚種別の動向（総漁獲量）は、マアジは 171 トンで平年の 6 割となりました。（正）